

会 議 報 告 書

- 【会 議 名】 令和6年度 第1回 三朝町部活動地域移行検討委員会
【日 時】 令和6年5月28日（火）午後7時から午後8時まで
【場 所】 役場第2会議室
【出 席 者】 （1）検討委員 8名（1名欠席）
 （2）事務局 3名

【報告事項】

1 辞令交付

補充委員に社会教育課長から本検討会委員委嘱の辞令を交付

【要 旨】

1 委員長挨拶

昨年度から地域移行の検討委員会が開催されており、色々と検討していくことがあるわけだが、私は今年度から三朝中学校に講師として勤務しており、部活動の野球部を担当することとなった。

その関係からか、昔、一生懸命、部活動に取り組んだ時期の気持ちが次第に蘇ってきて、やっぱり部活動は楽しいもんだなと思いながら土日の練習にも出させてもらっている状況。

何となくこの検討委員会の進むべき方向と、逆の方向に向かっているかもしれないが、そういう気持ちも教員としてはあるわけで、やはりこれからのいろんな社会の流れの中で検討していくことが大切なことだと思っている。本日も皆さんのいろんな御意見を頂戴できればと思う。

2 議題

(1) 本町における検討状況について

（社会教育課長から本町における検討状況について説明）

(2) スポーツ・文化芸術団体へのアンケート調査の実施について

（社会教育課長から骨子（案）及び調査表（案）について説明）

【協議検討（概要）】

- スポーツ・文化芸術団体へのアンケート調査について項目を精査。
- アンケートの取りまとめ後、7月中旬頃を目途に第2回検討委員会を開催。

3 意見交換等（主な意見）

(1) 本町における検討状況について

事務局：令和6年度も2ヶ月経過したが、県内市町村から、情報交換も今のところそんなに無い状態で、現状としてそれほど進んでいない状況。県からも検討状況の調査依頼ぐらいしか照会されていない。

委員長：国の動きとしても令和7年度までに移行の体制を作るという提言が行われているが、県としても令和7年度までに、そういう体制を作りなさいという提言というか、指導とか、そういうものはあったか。

事務局：昨年の県の推進計画に示すとおり、国の提言を位置付けるが、完了時期は設けないというニュアンスの記載であったと記憶している。

委員長：西部地区の退職された校長と話しをした時に、もう1～2年で部活動はほぼ無くなるような感覚の方もおられた。完全に地域移行になっていくだろうという感覚の方もあれば、倉吉市の現役の校長は、いやいや地域移行なんか出来るわけがないという感覚の方もおられるという状況で。なんか県内でも捉え方が現場としても違うような感じがしている。もちろん、地域によって当然そこは違うということだが、どこまでを段階的に移行する、県としても緩やか流れでいくという感じということか。

委員：各県の様子もネット上で情報が出ている。例えば茨城県の小さい学校は、町がマイクロバスを運行している取組をしていたり、合同チームで活動して中学生のニーズに応える自治体もあり、色々と部活動の改善を目指しているところもあるようだ。

ただ、基本的に、国が働き方改革で、中学校の先生の負担軽減のため、部活動を切り離れたほうが良いという一斉の地域移行なので、保護者や生徒が要求した地域移行ではないと考える。

だから保護者や生徒は「地域で部活動をしたい」と意見しないと。地域の方が頑張れるとか、安心安全だということになっていって地域からしていかないと。やっぱり学校でした方が頑張れるという雰囲気のままだったら、無理やり地域移行しても生徒も保護者も喜ばないと思う。

出来るところからしていかないと。例えば水泳は学校では無理なので地域のクラブという種目的な特色もあるし。駅伝の合同チームにしても学校で取組まないと応援しにくいという種目もあって、全部一斉にという事にはならないと思う。

これまでの過程を少しずつPRしていくのが必要だと思うし、一度に土日はノータッチとしてしまうと町民も驚かれると思う。教育振興会だったか、部活動後援会だったか、そういうのももうしなくていいかと思われてしまうかもしれない。

個人的には、もともと中体連は高体連のような部活動をイメージしていたと思う。学校における部活のチームワーク、生徒指導の面でもいい方向に盛り上げて、ワンチームで頑張るような機運を醸成するような中体連のイメージだったと思う。

それが、急に国からのトップダウンで、小学校のように完全に手放して、スポ少みたくに教員ノータッチとなると、賛否両論出てきてしまうのはやむを得ないと感じる。

先日、高校総体の陸上競技で審判をしたが、学校代表として（部活動に）燃えている高校生を見ていると、スポ少の燃え方とは違うくらい高校生の気合いが感じられた。これだったら部活動に頑張れるなという様子を目の前で見えてきたところ。

そういう目的での中体連が、これから地域移行になっていくと、学校代表ではない状況で生徒の気持ちが盛り上がるかなと。クラブチームで出場するのとは町民の応援の気分が違う。それでも三朝中の代表としてうまくPRしないと町民も応援が出来ない気がして。この大会に関わって感じたところ。

その辺も踏まえて、焦らずに地域移行しないと。様々な自治体事例を見ても課題がたくさんある。上手くいっている事例というものもなかなか無いので。もっと他県の情報をどんどん入れて上手くいっているところを視察したり、情報を集めてきて本町の地域移行の目指す方向を見つけていかないといけないと感じる。

(2) スポーツ・文化芸術団体へのアンケート調査の実施について

委員長：まずは「調査対象」について協議したい。みなさんの御意見はいかがか。

事務局：体育協会の理事に地域協議会の方もおられるが、設問に沿った回答がいただけるかどうか委員の皆さんの意見を伺いたい。

スポ少単位団については、指導者の方はずっと変わらず御指導いただいているが、育成会長は、自分の子どもが卒団すると役がどんどん変わられるので、こちらも意に沿った回答がいただけるかどうかを伺いたい。

スポーツ推進委員会についても、代表者の方だけに照会をかけるのか、各委員、皆さんの御意見を伺った方がいいのか。そのあたりも御意見をいただきたい。

委員：体育協会の地域協議会理事とはどのような方か。

委員長：各地域協議会の体育部長みたいな方々がおられて、賀茂地域協議会だったら体育部長がこの理事に入っておられる。

何となく地域協議会は、こういう地域移行の受け皿的な存在として、そういう役割を担っていただきたいが、まだそこまではいかないと思う。

それと、設問の意に沿った回答が得られるかどうかわからないので、体育協会所属の競技部だけでも良いのではないかと思う。

スポーツ推進委員については、代表者の方という説明があったがいかかか。

委員：個人的には委員それぞれに諮るというよりは、スポーツ推進委員会としての総意をまとめた上で提言させていただくという形で良いと思う。

とはいえ、限られた会議時間で一つの答えがまとまって出せるか、ということもあるので、その前段階としてのアンケートの回答を各委員が持ち寄って検討することができればと思う。とりあえず各委員さんにアンケートを依頼されてみてはという感じ。

事務局：スポ少の育成会長さんについてはいかがか。

委員：指導者としてではなく）現在の、預ける側としての意見をすくいあげるといいう形になると思う。

委員：子どもを預ける側としての回答となるので、おそらくこのアンケートの内容、回答の意図もちょっとニュアンスが微妙に変わってくる可能性は大いにあると考える。

私としては、アンケート内容はこれで良いと思う。保護者、育成会長さんも毎年変わる場合もあるし、兄弟で入っていて何年も関わっている方も多分おられると思うので、その場合は（設問の意図が）すぐに分かると思う。

後は、私以外の各単位団代表指導者の方が、この会議のことをご存じか分からないが、そういう指導者の方から保護者にある程度の説明がなされているかどうか。

「部活動の地域移行について町としてこのように考えていますよ」と、「スポ少もひよっとしたら何かしら変わるかもしれませんよ」というのを伝えているかどうかによっては、育成会としての回答も、若干意図が変わるかもしれないなどは思う。

アンケートの最後に、意見の自由記載があるので、多分こちら辺に何か書いてくるのではないかと思う。調査対象としては、案のとおりでいいと思う。

委員長：他に意見が無ければ、次にアンケート内容について協議したい。

事務局：カテゴリ毎に御協議いただきたいと思う。

設問にこういった質問があれば良いという御意見があればお願いしたい。

委員長：問1（国が進めている中学校部活動の地域移行を知っていますか）は、知っているか知らないかというよりは、このアンケートを通して「地域移行というのはこういうことなんですよ」という説明を入れたほうが良い。

事務局：設問前に概要を追記する。

委員長：その他、意見はよろしいか。では次の項目に移りたい。

事務局：続いて「スポーツ団体の皆さんへお伺いします」という箇所について、問5から問9まで御意見をいただきたい。

委員長：実際にどのぐらい受け皿があるのかっていうところが今回のアンケートで一番知りたい部分ということで良いか。

事務局：はい。どれだけの団体が条件によっては理解いただき協力するという。そこをちょっと把握したいと。どこまで求めるかということではなく。

委員長：受け入れを検討できると答えたから「お願いします」というわけではないということ。

委員：念押しで、そういった意味合いの一文があった方がよいと思う。この調査表の中でなくても、依頼文にそういった意味合いのことが記載されていると良いと思う。

必ずしも参画をお願いするものではありませんというような。

委員：問8は問5で「1 前向きに検討したい」と回答された方の設問なので、問5の1の選択肢の下に他の選択肢同様「問8へお進みください」という記載があった方がよいと思う。

又、「2 条件によって検討可能」と回答された方も対象であれば同様に記載した方がよい。後は設問の順番を変えてすっきりさせるとか。このままいくと「1」を回答された方がここでアンケートを終えてしまう可能性もある。

委員長：その他よろしいか。では次の項目に移りたい。

事務局：続いて「文化芸術団体の皆さんにお伺いします」の箇所、問10から問13について御意見をいただきたい。

文化芸術団体については受け皿という認識よりも「活動の中で中学生との関わりを持っていただけるか」、いわゆる休日の余暇時間を中学生と一緒に過ごすということについてどうお考えですかというようなニュアンスで設問を作成している。

委員長：町内の文化団体が18団体とあるが、どのような活動を行っているのか。

事務局：いわゆる文化サークルとして、カラオケ、三味線、太極拳、書道、俳句、囲碁、音楽や芸術系であれば絵手紙など。

委員長：御意見がないようなので、次の項目に移りたい。

事務局：最後に、全ての団体の皆さんへの設問として問14から問16について御意見をいただきたい。活動の場所や町の支援策、最後に御意見をいただくというもの。特に問15の町の支援策についての要望等があれば御意見をいただきたい。

委員長：御意見がないようなので、最後に全体で何か御意見があればお願いしたい。

それでは意見なしということで、今の意見を反映した形でまとめたいと思う。

事務局：それでは調査項目の修正をかけ、6月からアンケートを実施したいと思う。

委員長：大きなその他ですが、皆さんから何か御意見はないか。

町の考え方として、令和7年度にはできるところは移行するという意向はあるか。

事務局：まだ、そこまでは出来ないと考える。どの方向に進めれるのか、まだ材料が不足している。やはり、協力団体がどれだけの頻度で、どのレベルでというのを、まずは把握しない限りは、何とも進まないかなと思う。これが今年の検討課題かと思う。

委員：理想はいろいろあれど、受け皿が無いことにはどうにも進まないと思う。

2月の検討会でも思ったのだが、教員が完全週休2日制になって随分経つが、取っかかりは第2土曜日の休みから始まって、これが隔週になって、最終的に完全週休になった。(休日の地域移行を)するのなら、私はまず月1回から始めたらどうかと思う。

学校の部活動と完全に切り離した方がよいと思う。月に1回の土曜日は「部活はしません」と。その代わり、町で行事を計画しているので、参加したい生徒は参加しましょうと。できたらそこをボランティア活動にしてもらっても良いかもしれない。

学校でやっていることを引き続きしてもらおうと、指導面でいろいろな問題があるので別物として。そして教員の負担軽減ということであれば、月1回の土曜日は部活動をしな

いと謳ってしまって、その中で受けてくださる団体がこれだけあるから、そこでできることを考えましょうというのが現実的ではないかなと思う。

委員長：そういう現場の声もありますので、その他、よろしいでしょうか。無ければ事務局に進行をお返しします。

事務局：第2回の検討委員会の開催予定については、アンケートの取りまとめ結果を事務局で分析したうえで、7月中旬頃を目途に開催したいと考える。以上で、本会を終了とする。

以上